

新宿副都心の沿革①



昭和 37 年(1962)頃の淀橋浄水場
東京都広報スライド特集『都市計画のはなし』昭和 42 年(1967)2月

ここではまず、新都庁舎の移転候補地となった西新宿の土地利用の変遷をたどります。

明治期に入ると、多摩川や神田川などの流水を導いた江戸上水の水質悪化をうけて水道設置が検討され、明治 31 年(1898)、新宿駅西側に淀橋浄水場が完成しました。

ところが大正期末頃から新宿が商業地・歓楽街として繁栄すると、地元から東京市に対し、度々浄水場の移転要請が出されます。

しかし移転が具体化しないまま戦争が拡大、本格的な新宿西口開発も終戦後に持ち越されました。